

【科目名】義肢・装具学		【担当教員】佐々木理恵子、非常勤講師						
【授業区分】 専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】 3-17-0685-0-1	(メールアドレス)						
【開講時期】3年次 後期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)						
【単位数】2単位	【コマ数】15コマ							
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>運動学・解剖学を中心とした基礎医学を復習しておくこと</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢を積極的にとること</p>								
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 義肢学は、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学修する。また装具学は、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。</p> <p>(方法) 義肢や装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説し、また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。</p>								
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切断とは何かを理解し、切断患者に残存する機能また、義手・義足についての理解を深める。</li> <li>・装具として現在処方されている代表的なものの目的・機能について理解し、将来対峙する対象者の状態に合わせてその知識を還元できる。</li> </ul> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢・装具の構造を理解し、適応のチェックからリハビリテーションまで理解することができる。</li> </ul>								
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>川村次郎 他著：義肢装具学 第4版，医学書院，2009. ￥7,350</p>								
<p>【参考書】</p> <p>加倉井周一 他著：装具学 第3版，医歯薬出版，2003. ￥6,510</p> <p>沢村誠志著：義肢学，医歯薬出版，1989. ￥7,140</p>								
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。</p>								
【達成度評価】	試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80						20	100点
評 取り込む力・知識	○							

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	○						○	
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)					
1.2	講義：オリエンテーション 装具学概説 (切断疾患、切断レベル、義足の種類など) 下腿義足概説 (ソケット、義足足継手・義足足部、アライメント、下腿義足歩行など)	講義							
3.4	講義：下腿切断者の身体評価方法と訓練方法 (ROM、MMT、日常生活、装着前訓練など) 演習：下腿義足の適合評価方法(ソケット評価、アライメント評価、装着訓練など)	講義・演習							
5	講義：大腿義足概説(ソケット、義足膝継手、アライメント、大腿義足歩行など)	講義							
6.7	講義：大腿切断者の身体評価方法と訓練方法 (ROM、MMT、日常生活、装着前訓練方法など) 演習：大腿義足の適合チェック方法 (ソケット評価、アライメント評価、装着訓練など)	講義・演習							
8	講義：下肢装具概説 (対象疾患、下肢装具の種類、継手の種類、脳血管障害など)	講義							
9.10	講義：脳血管障害者の評価方法と訓練方法 (Stage Test、ROM、MMT、装着前訓練方法、アライメント評価、装着訓練など) 演習：脳血管障害者の評価方法と訓練方法 (Stage Test、ROM、MMT、装着前訓練方法、アライメント評価、装着訓練など)	講義・演習							
11.12	講義：義手概説(能動、筋電、分類適応など) 演習：能動義手操作、調節方法など	講義・演習							
13	講義：頸椎、体幹装具	講義							

平成 26～28 年度入学者用

14	講義：上肢装具概説（対象疾患、種類、機能、役割など）	講義		
15	講義：上肢装具の適応（疾患・障害への適応の実際）	講義		
試験				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。